

【日程・講師プロフィール】

<p>第1回 10月1日 (日)</p>	 藤里 正視さん	<p>1958年に千葉県で生まれる。1984年、千葉大学医学部を卒業、千葉大学麻酔科に入局。千葉県がんセンターや国立がんセンター中央病院で麻酔科医として経験を積む中で、ターミナルケア(当時は緩和ケアという言葉はなかった)に出会う。再度勤務した千葉県がんセンターでは、麻酔科医として、緩和ケアの黎明期に独自に取り組み緩和ケアの先駆けとなった。その後センターを離れたが、50歳を迎えるにあたり、麻酔科を離れ、緩和ケアの臨床医となることを決意し、千葉県がんセンターに3度目の入職をした。しかし、思いとは裏腹に麻酔科医不足などの病院事情に翻弄され、次第に管理職の立場へと移行、そして今年、病院長就任と相なった。臨床業務からは遠ざかる状況となったが、病院運営に緩和ケアマインドで臨む。現在は病院長業務の傍ら、ライフワークとして音楽療法を取り入れたスピリチュアルケアにひとりギターを抱え取り組んでいる。</p>
<p>第2回 2月4日 (日)</p>	 鍋谷 圭宏さん	<p>1960年に千葉市で生まれる。1985年千葉大学医学部卒業、千葉大学第二外科(現在は先端応用外科学/食道・胃腸外科)に入局。1992年より米国コーネル医科大学ならびにメモリアル・スローンケタリングがんセンターに留学。帰国後、千葉大学で11年、2010年から千葉県がんセンターで主に食道がん・胃がんの外科治療を担当。その間、日本の外科医が挑んできた拡大手術の意義が科学的に否定され、20年前の留学時から患者への侵襲低減を目指していた米国の外科医の先見性に感心し、外科医としての感性が変わった。また、手術に薬物・放射線治療を組み合わせた集学的治療が進歩し、それを継続させるべく栄養療法の意義が明らかになってきたことに刺激され、千葉大学病院で2006年に組織横断的栄養サポートチーム(NST)を初めて設立。2010年に千葉県がんセンター赴任後は、栄養サポートチームチェアマンとしてNST活動の発展に努め、特にがん患者の「美味しく食べたいにゆえたい」栄養サポートを目指し続けている。現在は、副病院長業務の傍ら食道・胃腸外科部長として手術にも入り、日本臨床栄養代謝学会副理事長をつとめる。</p>

【会場までのアクセス】



..... 切り取り線

連続講座 会場参加申込票	
参加者氏名	
立場	患者・家族・医療関係者・その他
住所	〒
連絡先(電話・FAX)	
参加日	10月1日 2月4日